

## 日本医学会分科会活動報告

日本衛生動物学会  
学会長 夏秋 優

### I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

#### a. 特に学術的に重要と考えられるもの

##### ・学術集会の定期開催

全国大会および各支部大会を毎年開催している。学術集会は研究発表および研究者間の情報交換の場となる他、市民向けの講演会（公開講座）を催すことで衛生動物学を広める機会となっている。

##### ・学術雑誌の定期刊行

学会誌「Medical Entomology and Zoology（衛生動物）」を年4回定期刊行している。本誌は英文/和文論文を掲載し、オープンアクセスにより国内外に情報を発信している。また、デング熱の国内集団感染や、WHOによるジカウイルス感染症の「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態宣言（2016年）」など、衛生動物学分野の問題が生じた際は特集や総説を企画・掲載した。

##### ・研究班活動

研究班として殺虫剤研究班とダニ類研究班を擁し、それぞれの専門家が定期的に集会を開催して研鑽を積んでいる。

##### ・衛生動物分類学研修事業

衛生動物分類学の現地研修を通じて、若手研究者や自治体の衛生動物担当者などを含む対象者の育成を図るため、2020年6月に衛生動物分類学研修実行委員会を発足し、年1回の定期研修の実施を決定した。本研修は学会員有志により2014年から行われていたもので、2020年より当学会主催で執り行うこととした。しかしながらCOVID-19流行の影響により2020・2021年は未実施である。

#### b. 当該領域における国際的な役割

- ・学術集会および学会誌により、海外研究者や国内留学生の研究発表の場を提供する。
- ・学会員の国際学会参加および海外研究者の国内開催学会への招聘に係る費用を助成することで国際交流を支援する。
- ・日本 ICIPE（International Centre of Insect Physiology and Ecology, Nairobi, Kenya）協会委員として活動する。
- ・日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会の一員として国際昆虫学会の招致活動を行い、2024年開催の決定に至った。
- ・国際緊急援助隊感染症対策チームに参画（2016年のコンゴ民主共和国での黄熱の流

行に際して学会員が専門家として派遣された)

#### c. 活動からもたらされる社会的な意義

本学会では、衛生動物およびその媒介感染症について、基礎的知見の蓄積から疫学対策への応用まで様々な分野の研究者が集結し、広範かつ多角的な研究が進められている。また、衛生動物学関係者への研修事業や、一般市民向けの講演会などが企画されている。これらの活動には以下のような社会的意義が期待される。

- ・衛生害虫の特徴やその被害を正しく知ることができるようになる
- ・節足動物媒介感染症対策において適切な対応ができるようになる
- ・有病国における疫学研究および対策活動により国際貢献ができるようになる
- ・減少している専門家の人材育成が可能になる
- ・衛生動物学関連業界の人員増加が期待できる

#### d. 学会運営上留意している点

- ・学会誌および学術集会により学会員らの研究成果を発信することで、衛生動物学の発展に寄与する。
- ・学会ホームページ・会員 ML により、情報発信および学会員間の情報交換の場を提供する。
- ・例会・緊急シンポジウム等の開催を通して一般市民へもタイムリーな話題を提供する機会を設けることで衛生動物学の普及に寄与する。
- ・若手研究者を対象とする「佐々賞」および「大滝哲也奨学金」制度を設け、研究の奨励と人材の育成に努める。
- ・ダイバーシティ推進委員会を設置して、本大会期間中の保育所・託児所の開設の調整など、男女共同参画の観点から求められる事業を実施する。
- ・助成金制度により、会員の国際学会参加や、国内開催学会への海外研究者招聘などの国際交流を支援する。
- ・各種学会連合および学術団体に参加して関連学会（日本医学会、日本医学会連合、日本学術会議農学委員会および基礎医学委員会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、自然史学会連合、日本昆虫科学連合、男女共同参画学協会）と連携した活動を行う。

## II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- ・北日本支部および南日本支部は、支部大会を日本寄生虫学会と合同で実施している。
- ・日本学術会議基礎医学委員会および農学委員会に連携会員として参画し、食料科学委員会も含めた3分科会による共同提言（2019年4月）、ならびに基礎医学委員会より提言（2019年5月）をそれぞれ発出した。
- ・日本医学会連合 社会部会若手リトリートに参加した。